

【訃報】

前学友会会長 玉田 彰氏(53回生) ご逝去

大阪支部 2024年1月30日ご逝去 66歳

略歴

昭和54年 京都放射線技術専門学校 卒業

昭和54年 財団法人住友病院 入職

学友会役員歴

平成23年度から26年度 学友会理事

平成27、28年度 学友会副会長

平成29年度から令和4年度 学友会会長

令和5年5月 学友会功労賞



玉田前会長を偲んで

名誉会員 西谷源展

昨年の12月7日に島津学園の理事会・評議員会が京都市内で開催された。玉田前会長は2017年から学園の評議員に就任されており、この日は久しぶりにお会いできると思って私も出席した。しかし、体調不良ということで欠席であった。昨年の学友会広島総会時はお元気であったために、少し気になりメールで体調をうかがってみた。すぐに返信をいただいたが、ここ二週間ほど高熱が続いているとのことであった。さらには卒業生として評議員に選出されているが、辞任したい旨の文面があった。私はしばらく回復を見て考えてはどうかと慰留をしていた。1月20日の学友会京都支部総会で57回生塩山氏から病状があまり好ましくない状況であることを伺った。1月30日、大学にて遠山理事から逝去の報を伺った。

2020年2月に、神澤名誉会員・玉田会長・錦副会長と私の4名でお互いに夫婦での参加ということで京都丹後地区の温泉に小旅行を行った。私以外の三氏はご子息も卒業生という共通の境遇にあり、旅行も楽しく良き思い出の小旅行であった。その後、私に思いもよらなかった食道癌ステージⅢの診断があり、化学放射線療法の後手術と約4か月にわたる闘病生活を送った。

2022年に玉田前会長も初期の癌が見つかり早期の発見が幸いし、手術で除去でき回復されて会長としても元気に復帰された。私より2年後の発症であったが、ごく初期に発見されての治療であったために早期回復を喜んでいた。

玉田前会長は、私が母校の教員となって6年目になったころの入学で、京都府立嵯峨野高校から母校が京都放射線技術専門学校であった1976年(昭和51年)に入学されている。1979年(昭和54年)に卒業後、大阪の財団法人住友病院に就職されている。2005年(平成17年)に同病院放射線診断技術室技師長に就任され、2010年(平成22年)には診療技術部副部長兼健康管理センターの副センター長に就任されている。技師長在任中は多くの卒業生の採用、指導にも大変ご尽力を頂いた。

学友会では、2011年(平成23年)に理事に就任し、2015年(平成27年)副会長、2017年(平成29年)会長に就任し、3期6年間にわたり会長として会を牽引された。

これから何年も友人としてまた、学友会の重鎮としてご指導をお願いするところであったが、残念でならない。2月1日に葬儀が行われ、家族葬であったがご遺族のご厚意で錦学友会長と共に参列が許可され、焼香・献花を行い、お別れをさせていただいた。

ご冥福をお祈りいたします。

合掌

玉田前学友会長を偲んで

会長 錦 成郎

2024年1月30日「涙声ですいません。玉田前会長が本日お亡くなりになりました」という一報を遠山先生からいただきました。今想えば昨年末の京都医療科学大学理事会・評議員会を欠席され、2回連続だったので心配していたら、後日、西谷先生からの電話で、玉田先生が「体調が思わしくないので評議員を降りたい」とお

っしやっているとのこと。玉田先生は大きな手術を乗り越えられ、術後しばらくしたら「俺、飲んでも大丈夫やねん」と言われ、ご一緒させていただいていたこともあったので、「辞任はいつでもできるので、もう少し様子を見たら如何でしょう」と申し上げたら「私も同感だ」と西谷先生。まさか、こんな早くにお亡くなりになるとは思いませんでした。お見舞いにも行けず、悔やんでも悔やみきれません。玉田先生とは学友会理事会からのお付き合いですが、1年先輩の学友会長と副会長という関係で、何かにつけ酒宴を重ねては語り合うことが常でした。玉田先生は車が大好きで、「今の Audi も好きやけど、BMW M3 にもう一度乗りたい」と話されていたことを思い出します。玉田さんは皆さんご存じのように人情味が深く、常に周りへの心配りを怠らない方でした。西谷先生がご病気になった時も、コロナ禍のため病院での面会ができずにいたところ、玉田先生から「ご自宅に戻られたので、お見舞いに行こう」と時機を逸することなく行動を起こされたことを思い出します。また、2021年に開催予定であった学友会の広島総会では、コロナ禍の煽りをまともに受けるなかで、感染対策はもとより社会的規範の変容にも配慮すべく、流行の波に翻弄されながら理事会で議論を重ねていましたが、最終的に玉田先生が見送りの決断を下されました。実はその前年に沖田支部長を訪ねて広島まで西谷先生と3人で行った経緯もあり、そのまま開催したいという強い思いもありながらの苦渋の決断だったと思います。

その後、広島サミットの影響はあったものの2023年に無事広島で総会を開催できたのも、当時の玉田先生の冷静な判断があつてのことだと確信しています。リーダーは、常に一步引いて俯瞰する視点を持ち、時期が来たら冷静な判断のもとでタイミングを逃さず行動することが大切なのですが、玉田先生はそのまま有言実行されていました。

最後に、玉田先生、6年間に渡って会長職を担っていただき、ありがとうございました。一緒に楽しい時間を過ごせたことに感謝し、たくさん頂いたご教示を大切にして努めてまいりたいと思います。お別れするのは早すぎましたが、本当にお疲れさまでした。ゆっくりお休みください。学友会員と共に心からご冥福をお祈りします。

合掌